

インスリン治療中の 児童・生徒の低血糖症に 点鼻グルカゴン薬(バクスミー®)を 使用する際の教職員マニュアル



<作成にあたり>

※以降のスライドの点鼻グルカゴン製剤は、すべて「バクスミー」と表記しました。

※スライド中の図・写真等は「バクスミー®点鼻粉末剤使用者向けパンフレット
(グローバルレギュラトリートパートナーズ合同会社)」より抜粋しました。

(2025年2月作成)

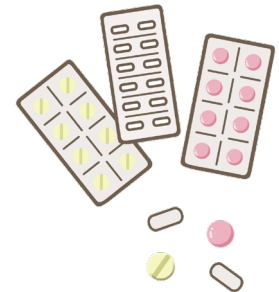
低血糖、低血糖症とは

低血糖とは、血糖値（血液中のブドウ糖濃度）が正常の範囲より低い状態（一般的には70 mg/dL未満）のことです。

糖尿病の薬が効きすぎると、低血糖が起きます。特にインスリン（注射やポンプ）治療をしている生徒は、運動や食事のタイミングや量との兼ね合いで低血糖をおこしやすいです。

低血糖が原因で、いろいろな症状がでますが、これを低血糖症といいます。

食事療法と運動療法のための学童・生徒は、低血糖や低血糖症は、ほぼおきません。



低血糖症の症状

症状には、「空腹感」、「顔や唇が青白くなる」、「ボーっとする」、「元気がなくなる」、「受け答えが鈍くなる」、「手や指が震える」、「機嫌が悪くなる」などです。

一般的に小学校上級になれば、低血糖を自覚できますが、小さなお子さんは自分では低血糖に気付きづらいです。昼食前とか、夕方に、「お腹がすいたと訴える」、「顔色や唇の色が悪い」、「元気がない」、

「機嫌が悪い」、「泣き叫ぶ」、「いつもと違う」など、普段と様子が違う時は、低血糖の可能性があります。

低血糖はそのまま放置しておくとも意識がなくなったり、痙攣の恐れがあります。



冷や汗、動悸



強い空腹感



めまい



手指の振戦



意識レベルの低下

低血糖症の対応

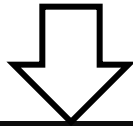
低血糖に気づいたらすぐに糖分の補給が必要です。これを「補食」といいます。自分で対応できない子どもの場合は周りの大人が補食させます。

軽い症状の場合はアメやラムネ菓子1～3個（ブドウ糖を5～15 g程度）、症状が強い場合は果汁ジュース200 ml（ブドウ糖20～30 g程度）くらいです。補食を摂取すれば5分ほどで回復します。生徒さんは、いつでも速やかに対応できるよう、補食は身に着けておく習慣を主治医から教わっています。

ただし、意識障害や痙攣を伴う重症低血糖の場合、口の中にもものを入れる行為は、誤嚥の可能性があり危険です。生徒がバクスミー®を保持していたら、先生方に、使用をお願いいたします。

低血糖発生時の流れ

低血糖が起こったと
判断されたら

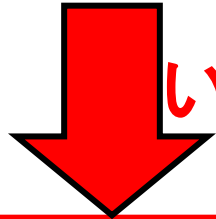


意識があり、
口から糖分をとれる

はい

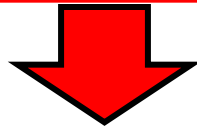


口から糖分を取り
(補食)、回復を確認



いいえ

介助者がバクスミー投与



- 家族へ連絡
- 救急要請

<バクスマーについて>

バクスマーは、血糖値を上げる働きのある「グルカゴン」を含んでおり、低血糖を起こした糖尿病患者さんの救急処置に用いる薬です。

鼻の粘膜から吸収されるため、意識がなくても使用できます。



黄色の容器の長さ：約79mm、横(直径)：約31mm

～特徴～

1回使い切り

常温保存可能

携帯可能

<バクスミー の使用法1> ～点鼻容器の取り外し方～



赤色の部分を
引っ張り、包装用
フィルムをはがして
ください。



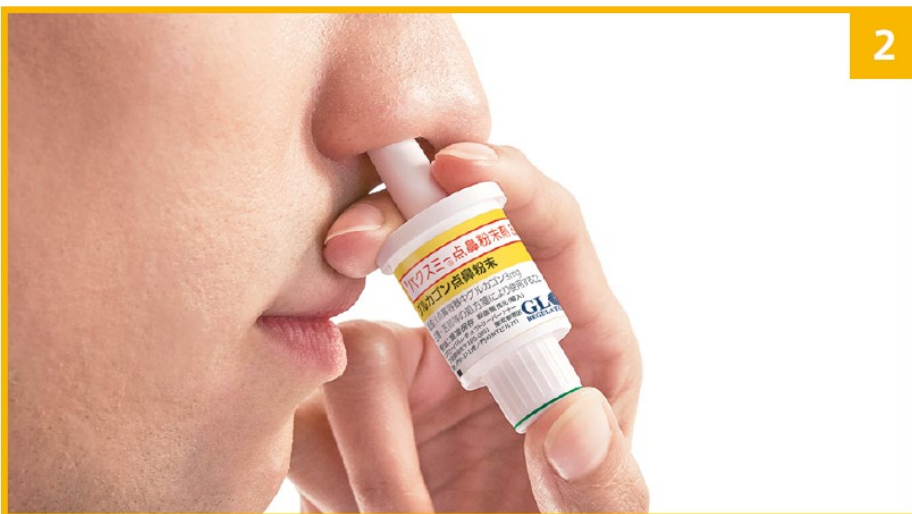
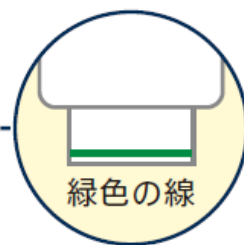
黄色の容器のふたを開け、
点鼻容器を取り出します。

注) 噴霧する準備
ができるまで注入
ボタンを押さない
でください。

<バクスマーの使用法2> ～噴霧方法～



図のように親指と人差し指、中指で点鼻容器を持ってください。**1回使い切りのお薬のため、試し打ちはしないでください。**



人差し指又は中指が鼻に当たるまで、
点鼻容器の先端を片方の鼻の穴にゆっくり差し込んでください。



注入ボタンを最後まで押し切ってください。
緑色の線が見えなくなるまで押し込むと、噴霧が完了します。

＜バクスミー の使用法3＞ ～噴霧完了の確認～

噴霧後に緑色の線が見えなくなっていることを確認してください。

緑色の線が見えている状態では噴霧できていません。緑色の線が見えている場合には、再度②からやり直し、噴霧後に緑色の線が見えなくなったことを確認してください。

○ 正しく噴霧できている

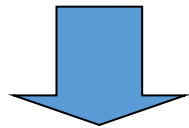


× 正しく噴霧できていない



バクスミー 使用後の対応

- 速やかに保護者に連絡し、あわせて救急要請してください。
- 低血糖を起こした時刻、バクスミーを使用した時刻を確認し、救急隊到着まで、生徒の様子を観察してください。



＜意識が戻ってきたら＞

- ▷上半身を起こしてジュースなど糖液を口からとらせてください。

＜意識が戻らない場合＞

- ▷仰向けのまま体と顔を横に向けてください。
(嘔吐による誤嚥をさせけるため)
- ▷救急隊の到着を待ちましょう。
- ▷症状が改善しなくてもバクスミーの再投与は行いません。

＜バクスマー®の留意点＞

- ▶使用する直前まで包装用フィルムをはがしたり、黄色の容器を開けたりしない。
- ▶1回の使い切りで、繰り返し使用できない。
- ▶使用期限を確認する。
- ▶30度以下の室温で保管する。
- ▶患者自身のものを使用する。
- ▶鼻以外で使用しない。



<参考 バクスミー情報共有リスト>

○保護者と学校との間で、以下のような項目を情報共有しておくといでしょう。

<保護者緊急連絡先>

病 名：1型 ・ 2型 ・ その他（ ）

治療法：インスリン注射 ・ インスリンポンプ ・ その他（ ）

自分で低血糖がわかるか： はい ・ いいえ ・ その他（ ）

自分で低血糖に対処できるか： はい ・ いいえ ・ その他（ ）

学校での補食内容：

<バクスミー>学校での保管場所：

使用期限：

<通院先>

医療機関名：

主治医氏名：

連 絡 先：

<参考：糖尿病とは>

食べたものは、胃・腸で分解されてブドウ糖になり、小腸から血液中に取り込まれます。血液中のブドウ糖(血糖)は体中の細胞に、インスリン存在下に取り込まれ、エネルギー源として使われます。

インスリンは、血糖を細胞に送り込む大事な働きがあり、その結果、血糖がエネルギーとなって消費され、血糖値は一定の値に保たれます。

インスリンの不足や欠乏、効果の減弱により、血糖を上手に消費できなくなると、高血糖(血糖値が高いこと)が続き、「糖尿病」を発症します。糖尿病には、幾つかタイプがありますが、子どもがなりやすいのは、「1型糖尿病」と「2型糖尿病」です。

いずれのタイプも高血糖になると、尿が近くなったり、のどが渴くなどの症状が出ます。さらに高血糖状態が続くと痩せてきたり、だるく元気がなくなります。

このような症状や合併症で困らないためには、血糖値を正常に近づける治療が必要です。治療を継続し血糖値を良好に保つことにより、学校を含めた日常生活は、他のお友達と同じように送ることができます。